



2023年9・10月号

号外 2023 9

発行：NPO 法人 まち・すまいづくり
発行人：竹村伍郎
TEL&FAX：06-6779-7222
http://www.machi-sumai.com/
uemachi@machi-sumai.com
〒543-0043
大阪市天王寺区勝山1-11-29

「上町台地」名所図会

第11回

大阪市立美術館
(天王寺区)

通天閣がある繁華街『新世界』を出て動物園の真ん中を貫く陸橋を東に向かい、階段を登り切ったところに見える『白亜の殿堂』。あまり大阪に馴染みがない人は、さつきまでいた新世界界隈とのギャップに驚くことでしょう。著者が初めて訪れたのは40年前の高校生の時でしたが、「大阪にもこんな場所があるんだ」と誇らしく思ったものでした。

大阪市立美術館は1936（昭和11）年の開館（写真左）。公立美術館としては東京、京都に次ぐ歴史をもちます。土地は隣接する慶沢園とともに住友本家が寄贈しました。登録有形文化財指定の建物は、旧・大阪市立大学1号館を手掛けた伊藤正文などが設計を担当しています。

地上3階、地下1階の鉄筋コンクリート造り。当時流行していた和洋折衷の帝冠様式ではなく、あえて蔵を模した近代和風にしたのは、収蔵施設であることも表現するためだ、といわれます。それとは逆に内装は豪華なシャンデリアや大理石をふんだんに使用した純洋風で、入ってすぐの中央ホールに立つと、ヨーロッパの王宮にいるような気分すら味わうことができます。

実は、見どころは美術館の外にもあって、新世界につながる階段からの眺め、とくに夕方のはまさに絶景なのです（写真右）。個人的には地上から見える夕景では上町台地で一番。もし、いまの時代に法然上人が生きていたら、ここを日想観の場所に選んだかもしれません。

※大阪市立美術館は大規模修繕のため、長期休館中です。2025年春再開の予定です。



美術館の土地は住友家が寄贈した



美術館の前は市内でも有数の夕景スポット

中原文雄／写真

1948年生まれ。建築工房日想舎 主宰。NPO法人まち・すまいづくり会員。

松本正行／文

1965年生まれ。ライター・編集者。NPO法人まち・すまいづくり会員。

※名所図会(ずえ)とは名所の来歴などを絵も交え紹介したもの。
※「うえまちweb」(https://uemachiweb.com/)連載の「上町台地」名所図会より、みなさまからの反響が大きかったものを、本号外でも掲載いたします。



相羽秋夫の

らくご ハローワーク

第21職 砂の中『黄金の大黒』捜し当て

家主(いえぬし)の子供が、砂いじりをしていて黄金(きん)の大黒を見つけた。縁起が良いと、家主は店子(たなこ)を招待して宴会を開く。宴もたけなわになって、店子の一人が、「豊年じゃ豊年じゃ、米が百で3升じゃ」と囃し立てる。それを聞いていた大黒が外に出ていこうとするので、家主が止める。大黒「米が安くならんうちに、足の下に踏まえている2俵を売りに行くのじゃ」。

家主は「やぬし」とも読む。貸家の持主のことである。大家(おおや)とも称する。ところが、大屋と表記を違えると、貸家の取締りや世話をする、今日のマンションの管理人の意味になる。江戸期の大家や大屋は、貸家の管理だけに納まら



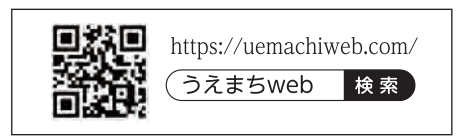
ず、貸家人が役所に届出をする時は、必ず同伴しなければならず、訴訟を起こす場合にも承認が必要とされた。いわば、弁護士や税理士のような存在であった。家主(大家・大屋)と対比する言葉は店子である。店(たな)には、商品を売る場所、商家のことと貸家の意味がある。だから、店子は借家人を指す。店借(たなかり)という表現もある。「大屋と言えば親も同然、店子と言えば子も同然」という言葉があるように、親子のような一体感、連帯感でつながっていた。また、中にはこんなこともあった。まず、江戸川柳をご紹介する。「後家の世話しすぎて大屋疑われ」というものだ。店子の中には後家、つまり未亡人も居たであろう。その女性に、大屋が親切にしてやっていると、昔風に言えば理無(わりな)い仲間になってしまった。噂はすぐに立ち、町内で知らぬ者がいない状態になった、という意味だ。ひよっとしたら、業務上横領で職を解かれたかも知れない。

NPO法人「まち・すまいづくり」活動報告

お問い合わせはNPO法人「まち・すまいづくり」まで
TEL:06-6779-7222

うえまち新聞Web
版もチェック!

上町台地界隈を始めとした大阪市のニュースやイベント情報、連載記事、2005年〜2020年の情報紙「うえまち」のバックナンバーなどがご覧いただけます。大阪府をともに盛り上げていただける方、企業様も募集中です。メンバー名(法人名・個人名)は、「うえまち長屋」ページにて無料でご紹介します。(リンク付は500円+税)



住まいと暮らしの総合無料相談会

9月9日(土)・10月14日(土) 10時〜12時
弁護士、司法書士、一級建築士、税理士、宅地建物取引士の当法人会員が専門知識を生かし、住まいと暮らしのご相談に応じます。電話またはHPよりお申し込みください(電話受付は平日10〜15時)。

主催：NPO法人まち・すまいづくり
(市立社会福祉センター指定管理者)
電話：06-6779-7222
場所：大阪市立社会福祉センター
(天王寺区東高津町12・10)
後援：天王寺区役所

第43回うえまち寄席

11月25日(土)14時開演
桂佐ん吉、桂ちよぶによる、古典を中心とした落語会です。電子チケット販売サイト「TIGET(チケット)」からも予約可能です。

場所：一心寺南会所(天王寺区逢阪2-7)
入場料：2000円



2023年9・10月号

号外 2023 10

発行：NPO 法人 まち・すまいづくり
発行人：竹村伍郎
TEL&FAX：06-6779-7222
http://www.machi-sumai.com/
uemachi@machi-sumai.com
〒543-0043
大阪市天王寺区勝山1-11-29

「上町台地」名所図会

第12回

帝塚山古墳
(住吉区)

大阪有数の高級住宅地・帝塚山。庄野潤三など数多くの文化人が住んだ地域としても知られますが、そもそものは新興住宅地で、明治までは家もわずかしかりませんでした。いまの阪堺電車上町線が通ることによって開発が進んだ、といえます。その帝塚山という地名は「帝塚山古墳」に由来します(写真左)。

国の史跡の前方後円墳で、全長約120メートル、幅は約50メートル(いずれも推定)。埴輪や古墳の形から、4〜5世紀につくられたと考えられています。実は、古い地名などから南西に小さな古墳が、東に現存古墳よりもさらに大きな古墳があった可能性が指摘されています(『住吉区史』など)。つまり、古代のこのあたりはちよつとした古墳群だったわけです。

上町台地の西側で築造当時は海に近い場所ですから、ヤマト王権の外港である住吉津に向かう船にとって、大きな古墳は格好の目印になったことでしょう。一方、江戸期は住吉詣の際の観光スポットとして『撰津名所図会』などでも紹介されました。そして、いまは大阪五低山として注目が集まります。標高約20メートルで、地面からの高さ約9メートルながら、墳頂からはあべのハルカスも望めます(写真右)。

埋葬されている人(埋葬者不明)も、写真のように自分のお墓の周りが住宅に囲まれるなど想像できなかったでしょう。



古代有数のランドマークだった可能性も



高さ9メートルで大阪五低山としても注目される

中原文雄/写真

1948年生まれ。建築工房日想舎 主宰。NPO法人まち・すまいづくり会員。

松本正行/文

1965年生まれ。ライター・編集者。NPO法人まち・すまいづくり会員。

※名所図会(ずえ)とは名所の来歴などを絵も交え紹介したもの。
※「うえまちweb」(https://uemachiweb.com/)連載の「上町台地」名所図会より、みなさまからの反響が大きかったものを、本号外でも掲載いたします。



相羽秋夫の

らくご ハローワーク

第22職 聞くほどに半信半疑の『鰻谷』

大阪市中心部を流れる長堀川には、ヌルマという魚がたくさん棲んでいた。誰も食べなかったが、この川沿いにある料理店「菱又(ひしまた)」の主人が蒲焼(かばやき)にして、たまたま喧嘩(けんか)の仲裁の席に出したところ、口の肥えた2人が絶賛したのが契機で、人々が注目するようになる。

◇ 店の内儀(ないぎ)の人気にあやかって、ヌルマをオナイギに掛けてウナギと改名。漢字は魚へんに店名から日四又(ひしまた)という字体にした。さらに、町名も内儀の名前「谷」に因んで、鰻谷と呼ばれるようになる。

鰻料理と言えば、まず蒲焼がある。鰻を縦に串刺しにし丸焼きした形が蒲(がま)の穂に似ているので蒲焼と言うようになった。タレを付けずに素焼し山葵(わさび)で食べる白焼もある。

この蒲焼を米飯の上に乗せると鰻飯。これを丼に入れると鰻丼。重箱なら鰻重となる。大阪では、蒲焼を飯の間にま



ぶすところから「まむし」とも称する。名古屋名物の櫃(ひつ)まぶしは、鰻を細かく切り飯にまぶした料理で、1杯目はそのまま、2杯目は薬味を乗せる、3杯目は薬味と一緒に茶漬けにするという三様の味わい方が出来る。これは商標登録のある料理名だ。

他にも、玉子焼の間にはさむ鰻巻(うまき)、蒲焼を細かく切り、刻んだキューリと三杯酢で和えた鰻作(うざく)、にぎり寿司にもなる。

京都では、間口の広さで税金を徴収したところから、間口を極端に狭くし奥行を深くした建物が多い。これを「鰻の寝床」と言う。また物価や温度、人の地位などが、見るうちにのぼることを、「鰻登り(鰻上りとも書く)」と表現する。鰻が水中で身をくねらせて垂直に登ることから例えられた成句である。

日本では、西太平洋のミクロネシア北部に位置するマリアナ諸島沖の水深200mの浅瀬に産卵された稚魚が成長し、川に登って来たものが天然鰻として珍重されている。静岡県伊東市の浄の池や、和歌山県西牟婁郡の富田川の鰻は、天然記念物に指定されている。

と、鰻だけに捉え所のない話でした。

大人のための

文章教室

ライター・編集者 松本正行

文のかたい・やわらかいは
場面に応じて

遊休地の有効活用が、現在、最優
先で議論すべき課題である。

漢語はもともと中国の言葉で、日本語に取り入れられました。例文は主にその漢語を使ったものですが、「堅苦しい」という印象がぬぐえませんか。一方、修正文のように少し和語(古くから日本で使われてきた言葉)を交えて書くと、ずいぶん印象は異なります。

遊んでいる土地をどう有効活用するかが、いま最優先で話し合うべき課題です。

和語はやわらかい印象を与えるため、漢語が続いたときには、和語に置き換えるといいでしょう(例:「明白」→「明らか」。「遅延」→「遅れる」。「増加」→「増える」)。なかでも不特定多数に向けた文章は、和語が多めのほうが読まれる傾向にあります。逆に、フォーマルな印象が好まれるビジネス文書は、漢語を多めに使ったほうが効果的です。シーンに応じて、うまく使い分けるようにしましょう。

参考までに、「明らか」という和語に対応する漢語には「明白」に加え「明瞭」「歴然」など複数あります。それぞれ微妙にニュアンスが異なっているので、漢語を使つたほうが自分の思いや考えを正確に伝えやすい。そのことも覚えておきましょう。

上町台地上にある高津高校出身。新聞社・出版社勤務を経て、現在 Webや雑誌等で活躍中。NPO法人「まち・すまいづくり」会員。